

■ 前君のスピーチ原稿を高校（求人用）に配布

2 年前に前君が工業高校で講話したレポートを、この度の求人活動で使ってみました。これを読んで意気に感じてくれる先生や生徒がいれば嬉しいのですが・・・。（文章は少し脚色しました）

■ 前君、東淀工業高校で生徒にスピーチ（2017 年 6 月 29 日）

株式会社ジンジブさんから「高校生向けの社会人講話」の依頼が来ました。「**実際に工業高校を卒業して社会で活躍している先輩**」として、今回は前和彦君が担当し、自らの職業体験を話しました。30 分間（×2 回）、合計で 10 人ほどの生徒が集まってくれました。以下、2 回のプレゼンをハイライトとしてまとめます。



[サボらないこと、助け合うこと]

- 勉強が嫌だった。工業高校に行った。早く社会に出て仕事をしたい。一番初めに就いたのは営業。イメージと違ってすぐに辞めてしまった。失礼なことをしたと思っている。もうちょっと頑張っていたら新しい発見が出来たかも。次は土木で、体を動かす仕事で楽しかった。汗かいて性に合っていた。土木がヒマになった時、紹介されて坂元鋼材に入った。仕事が合っているかどうか最初はわからなかった。けど、結婚して子供が生まれた。こりゃやらかなアカン。家族を養うために。
- 23 歳で入社した。自分のすぐ上の先輩は 40 歳で、自分だけが思いっきり若かった。一番初めに重視したのがサボらんように仕事すること。何十年やっている人に知識・技術では勝てない。体力しかない。若い時にサボらないで一生懸命やってきた自分があるから、いま 40 歳になっても動いている。人間はサボリグセ、休みグセがつくと、言い訳するクセがつく。「適当でいい」となる。若い時に絶対サボらない、それが大事。
- 会社に新しい機械が入るたびに触らせてもらった。いまは若い子に機械を譲って、遠目から見ている。わからなければ「まず自分で考えてから聞きに来なさい」と言っている。最初から人に依存していると、伸びない。
- 仕事で鉄板を切っていると、それが耐震補強のプレートになったりしている。**見えないけれど大事な所で使われている。**「キチッと仕事をしなければ」と思う。
- 会社で大事にしているのがチームワーク。職場間の移動を進めている。「自分の仕事はこれだけ」と自分で範囲を限定するのではなく、他の仕事も出来るように。他の人も自分の仕事を出来るように。相手のしんどさが分かって初めて「助けたい」と思える。それがチームワーク。そんな思いを持てる子に来てもらいたい。
- 覚えといてほしいが、いきなり会社に入って知識や技術で先輩と勝負できない。皆さんが出来る唯一の勝負どころは、絶対にサボらないこと。一緒に働く人間からすると、それが評価高い。
- 言われたことだけでなくプラスアルファ（+α）で何か出来るか。言われたことをやるだけでは作業。頭を使って初めて仕事になる。100 個のモノを作るのに、一日かけて 100 個か、半日で終わらせるか。どちらが作業でどちらが仕事か。
- 先輩の仕事を見て「自分ならこうする」と考え、やってみる。真似だけでは先輩に永遠に追いつけない。+α が大事。一番いいのは、社内を見渡して一生懸命している人を見習うこと。直属の先輩が一番とは限らない。できる人を探す。いろんな人のいいところを探す。自分に合うやり方を見つける。そして成長する。

[自分が社長 = 自分が自分をどう見るか]

- 会社の求人票を見ると、まず賃金を見てしまう。ぼくもそうやった。若い時はそれでもいい。いま

働いてきて思う。会社勤め（サラリーマン）はしていても「自分が社長」と思う。自分は前和彦という人間を坂元鋼材（会社）に売っている。「こんなスゴイ仕事をするなら給料をもっと上げたい」と会社が思うかどうか。そんな残像（イメージ）に自分が近づくこと。そうでないと欲しい給料にはならない。自分自身が納得できる仕事をする。会社が自分の給料を決めているんじゃない、結局は自分の働き方が自分の給料を決めている。

- ・ 「こんな安い給料やったら、この程度の仕事にしとこ」と思う子がいる。一方「もっとほしいやん、だからもっとやろう」と考える子もいる。どっちがいいか。給料はすぐには上がらない。3年、5年、みんなから評価されて、ようやく上がる。そこまで頑張る。
- ・ 結婚する前は、仕事って「やとつたれ」やった。適当やった。でも結婚して子供が出来た。背負うものがあると強い。自分が働かなアカン。ちょっとでも家族を楽にさせたい。ギリギリの生活はでけへん。
- ・ おったら勝手に給料上がる？ そんなことはない。
「自分が自分にあげたい」—— そんな働き方をしないと給料なんか上がらない。

[中小企業のいいところ]

- ・ 中小企業が大企業に負けているとは思わない。一人ひとりがそんな気持ちで働くと、大企業に負けない強い会社になれる。会社は規模ではなくて中身が大事。中身とは業績と人間関係と働きがい。
- ・ 中小企業は社長に面と向かって話せる。思いをじかに伝えられる良さ。それは大企業にはない。会社は名前だけで選ばないこと。
- ・ 仕事していて一番うれしいこと、なんやと思う？
「感謝？」（生徒）
そう、正解。上手に切ってるなあ、仕事が早いなあ、とかほめられる。もう給料の世界やない。
- ・ ウサギと亀の話。ウサギは能力が高いからとサボって、カメに追い抜かれる。サボらないことは凄い武器。誰でも一番初めに持てる武器、そこ大事。どんな仕事でも一番初めにそんなサボり癖をつける、自分の居場所がなくなる。技術（能力）があってもサボらないこと。
ヒマやったら「車の掃除してきます」「トイレの掃除してきます」とか。そんな人間になってほしい。
- ・ 自分から動くこと、それは日頃から考えないと出来ない。考える習慣のある子、2年、3年たつと、成長する。スゴイ成長する。自分は周りから見られている、ヘンなことでけへん。そう思って頑張る子は周りから愛される。それが一番大事。
- ・ 教えてくれる人がスゴイ人やと勘違いしてもいけない。スゴイ人は自分で探す。「この人よりも自分のやり方の方が早くできるかも？」——そんな風に考えて努力する子は、先輩を追い抜ける。
そんな社員ばかりの会社は、強くなるに決まっている。大企業にも負けへん会社になる。

[仕事の「正解」とは何か？]

- ・ みんなが就職した時「+α」ができる人間になってほしい。言われたことだけやない。いま若い子がやり方を聞きに来たら「まず自分で考えたんか？」と聞き返している。違ったら意見してあげる。そうやって「考えるクセ」をつけさせる。厳しいけど、成長してほしいから。
- ・ 本当の正解とは何か。お客さんに「ありがとう」と言ってもらえること、それが正解。きれいな、早い、ありがとう。そう言われて初めて「自分のやり方は正しかったんや」と分かる。
将来、就職したときに思い出してくれたらいい。
- ・ 学生時代は勉強がキライやった。でも機械の勉強だけはした。人から認められるためには、自分がしっかりしないと。機械は生きている。機械との対話。その境地になったら最高。
- ・ 「勉強が出来る」と「仕事出来る」は違う。仕事出来る人は頭の回転の速い人。常に考えること。そのために機械は勉強した。トラブルがあったとき、どこが壊れたか自分で考える。メーカーにばかり頼らない。メーカーを待ったら2日とか掛かる。自分でできたら半日で済む。プラスの勉強は惜しまずにやってほしい。
- ・ できたらどんどん自分を好きになってほしい。自分が好きでない人にいい仕事は出来ない。